練馬区　学ぼう、ユニバーサルデザイン　ステップツー

# 学ぼう、ユニバーサルデザイン

私たちのまちには、年齢や性別、国籍、体の状態などが違うさまざまな人が暮らしています。

この学ぼう、ユニバーサルデザインは、さまざまな問題を解きながらユニバーサルデザインについて学ぶことのできる教材です。

ユニバーサルデザインを学ぶことは、多様性への気づきや、自分とは違う立場の人のことを

考えるきっかけになります。

自分にどんなことができるのかを考えながら問題に挑戦してみましょう。

## 教材の流れ

１．次ページ以降では、ユニバーサルデザインに関する説明が出てきます。ぜひ、読んで考えを深めてみましょう。

２．途中、３択式の問題が出題されます。問題を読み、３つの選択肢の中から正解だと思うものを選んでください。問題は全部で６問です。

# バリアフリーとユニバーサルデザインの違い

バリアフリーは高齢者や障害者などの特定の人が対象となっているのに対して、ユニバーサルデザインはすべての人が対象です。たとえば、けがや病気で体が不自由になったり、外国に行ったとき、言葉が通じなくて困ったりすることがあります。このように、さまざまな状況の人がいて、自分や周りの人も困る状況になるかもしれないということを前提に、年齢や障害の有無、体格、性別、国籍などに関わらず、より多くの人が利用しやすい製品や環境、考え方をすることがユニバーサルデザインの大きな特徴です。

バリアフリーは特定の人のために

高齢者や障害者が社会生活を送るうえで、障壁（バリア） となるものを取り除く

ユニバーサルデザインはすべての人のために

年齢や性別、障害の有無等に関わらず、できるだけ多くの人が利用しやすいこと

# ユニバーサルデザインがある理由

私たちのまちには、子育て中の人・高齢者・障害者・外国人など、さまざまな人が暮らしています。

高齢者や障害者などは、生活をする中で困りごとを感じるときがあります。

車いすユーザーは、大きな段差や、階段があると困るなぁ…

高齢者は、バスの乗り降りが大変だなぁ…

外国人は、日本語の案内だけだと、わからないなぁ…

視覚に障害がある人は、文字が大きくないと、読めないなぁ…

聴覚に障害がある人は、放送があっても、気づけないなぁ…

妊婦さんは、ずっと立っていると、大変だなぁ…

さまざまな状況の人がいて、自分や周りの人も困る状況になるかもしれない。

だからこそ、最初からすべての人にとって使いやすいユニバーサルデザインが必要なのです。

私たちは、誰もが快適に過ごせる・利用できる環境の整備や、行動を変えていく必要があります。

# 問題１ 社会にあるバリア

社会には、4つのバリアがあります。

環境のバリア、情報のバリア、制度のバリア

あともう1つは何でしょうか。下記から、当てはまるものを選んでください。

Ａ. 年齢のバリア

Ｂ. 意識のバリア

Ｃ. 地域のバリア

正解はB　意識のバリア

社会には主に、環境・情報・制度・意識の４つのバリアがあると言われています。

環境のバリア

段差や階段などの、物理的環境のバリア

情報のバリア

受け取れるはずの情報が受け取れないなどの、情報のバリア

制度のバリア

社会のルールや制度によって、機会の均等を奪われる制度のバリア

意識のバリア

サポート方法を知らない・多様性への理解不足から起こる意識のバリア

私たちは、社会にあるそれぞれのバリアに気づき、解消をしていくことが求められています。

ここからは、具体的なバリアが何かを考えてみましょう。

# 問題２ 環境のバリア

次の中で、環境のバリアになっているものはいくつあるでしょうか。

スーパーの中で様々な人が買い物をしています

・点字ブロックが途中で終わっているため、頭にハテナマークを浮かべている視覚障害者

・段差の前で立ち往生している車いすユーザー

・棚の上の方に手を伸ばす子供

・背の低い棚に並ぶお惣菜

・お肉コーナーで肉を見ている高齢者

・棚と棚の間が狭く、立ち往生しているベビーカーユーザー

正解は4つ

たとえば段差や階段は、車いすユーザーにとっての環境のバリアとなり、スロープやエレベーターが設置されることが配慮になります。スロープやエレベーターの設置は、高齢者や妊婦のように足元に注意が必要な方や、ベビーカー利用者にとっても配慮となります。障害者にとっての配慮は、さまざまな人への配慮につながるのです。

ポイント解説

1．段差をスロープにすることで、車いすユーザーやベビーカー利用者に配慮されています。

2．点字ブロックが案内所まで途切れずに敷かれています。

3．商品棚が低くなることで、高齢者や背の低い子どもでも商品を手に取りやすいです。

4．通路幅が広くなることで、高齢者やベビーカー利用者、車いすユーザーも通りやすくなりました。

# 問題３ 情報のバリア(1)

次の中で、情報のバリアになっているものはいくつあるでしょうか。

駅のホームで様々な人が歩いています

・点字ブロックの上を歩く視覚障害者

・事故のため運転を中止いたしますとアナウンスが入っている電車の中でハテナマークを浮かべる聴覚障害者

・エレベーターに乗ろうとしているけがをしている人

・エレベーターに並んでいるベビーカーユーザー

・日本語しか書いていない案内板の前でハテナマークを浮かべる外国人

・高齢者に声をかける人

正解は2つ

電車内には、ドアの上に行先や停車駅、開くドアの方向などを知らせる案内表示（車内ディスプレイ） があります。案内表示は、聴覚に障害のある人への配慮になるとともに、多言語表記をすることで外国人にも配慮されています。電車内で音楽を聴いている人も多く、みんなにとって便利なものになっています。

ポイント解説

1．音声案内だけでは、耳が聞こえにくい人には伝わりません。困っている人が近くにいる場合は、筆談などでコミュニケーションをとりましょう。スマホやタブレットを使ってコミュニケーションを取ることも、効果的です。

2．日本語表記だけの案内では、外国人旅行者などは内容がわかりません。多言語表記の案

内板が増えてきています。

# 問題４ 情報のバリア(2)

情報のバリアは、受け取れるはずの情報を受け取れないことだと学びました。

では、下記の中で情報のバリアに配慮されているのはどの事例でしょうか。

当てはまるものを選んでください。

Ａ. とにかく大きな声で話すようにする

Ｂ. ポスターをつくる際は、色使いに気をつける

Ｃ. 文字を紙いっぱいに大きくして表示する

正解はB　ポスターをつくる際は、色使いに気をつける

印刷物のユニバーサルデザイン

皆さんは、色覚に特性のある人がいるのをご存じでしょうか。人によっては、赤と緑がほぼ同じ色に見えてしまうなど、色の見え方もさまざまです。

そういった方への配慮として、カラーユニバーサルデザインと呼ばれるものがあります。

多くの人が見分けやすい色を使う配慮です。

見分けにくい色の例

・赤と緑

・グレーとピンク

・黄色と黄緑

色の配慮の他にも、文字の形や大きさなど、多くの人に読みやすくするためにできることがあります。

練馬区では、印刷物のユニバーサルデザインガイドラインを作成しています。興味のある方は、ぜひ読んでみてください。

練馬区 印刷物のユニバーサルデザイン(UD)ガイドライン

<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/koho/oshirase/yunibasarudezaingaid.html>

# 問題５ 意識のバリア

次の中で、意識のバリアになっているものはいくつあるでしょうか。

街中で様々な人が歩いています

・エスカレーターの右側で立ち止まっている人に向かって、怒っている人

・たくさんの荷物を持って階段を上ろうとしている高齢者と、見て見ぬふりをする人

・自動販売機で飲み物を買おうとしている人

・手をつないで歩いている親子

・点字ブロックの上に駐輪している自転車にぶつかる視覚障害者

・人が多く乗っていて、エレベーターに乗れないベビーカーユーザー

正解は4つ

意識のバリアは、点字ブロックを防がないことや、エレベーターを譲るなど、皆さんの行動ですぐに解消することができます。困っている人を見かけたら、ぜひお声がけをしてみてください。

ポイント解説

1．困っていそうな人がいたら、お声がけをしてみましょう。

2．点字ブロックの上には自転車を置かないようにしましょう。視覚障害者がぶつかってしまうなど、危険です。

3．けがや障害などで左側の手すりにつかまることができない人もいます。エスカレーターは歩かず、手すりにつかまり、止まって乗りましょう。

4．エレベーターは誰にでも便利なものですが、エレベーターを必要としている人がいます。車いすユーザーやベビーカー利用者に譲りましょう。

# 問題６ さまざまなマーク

ユニバーサルデザインに関する、さまざまなマークを知っていますか？

ほじょ犬マークには、どんな意味があるでしょうか。

Ａ. ほじょ犬がいる家に掲示するマーク

Ｂ. ほじょ犬の受け入れに対して、ウェルカムだという姿勢を示すためのマーク

Ｃ. ほじょ犬の受け入れをする店舗に掲示するマーク

正解はB　ウェルカムだという姿勢を示すためのマーク

ほじょ犬マーク

ほじょ犬の入店可否を表すものと誤解している方がいます。2002年身体障害者補助犬法の施行以来、盲導犬や介助犬、聴導犬は不特定多数の方が利用する施設では、受け入れが義務付けられています。つまり、ぜひ来てくださいね、というお店側の気持ちを表すマークです。

オストメイトマーク

オストメイト（人工肛門・人口ぼうこうを造設した方）を示すマークです。オストメイト対応のトイレ等の設備があることを示す場合に使用されています。

ヘルプマーク

義足や内部障害、難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲に配慮を必要としていることを知らせることができるマークです。

# よりよいまちづくりに向けて

すぐにできる配慮その１

お声がけをして、サポートしましょう

すぐにできる配慮として、お声がけがあります。困っている人を見かけたら、何かお手伝いしましょうか？と気軽にお声がけをしてみましょう。もし、お願いしますと言われた場合は、どのようにお手伝いしたらいいのかを聞いてみましょう。少しのコミュニケーションが、意識のバリアを解消します。

すぐにできる配慮その２

社会にあるバリアに気づく

社会の中にあるバリアに気づくことも大切です。ここは危ないのではないか、困る人がい

るのではないかなど、日常生活の中で社会にあるバリアを意識し、どうすれば取り除くこと

ができるのか考えてみることが、さまざまな人がともに暮らしやすいまちづくりの第１歩になります。

どうでしたか？間違えてしまった人は、ぜひ再挑戦してみてください！